

教員名	清田 淳子 (KIYOTA Junko)
所 属	人間文化研究科
学 位	応用言語学博士
職 名	リサーチフェロー
URL / E-mail	jkkiyota@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

年少者日本語教育 / 学習支援 / 内容重視のアプローチ / 教員養成

◆主要業績

総数 (3) 件

- ・『母語を活用した内容重視の教科学習支援方法の構築に向けて』（ひつじ書房）
- ・「言語少数派の子どもの学習支援における母語活用の可能性の追求—来日直後の中国人児童を対象とした「国語」支援の実例からの検討」『多言語・多文化研究』第12巻、全国語学教育学会バイリンガリズム研究部会

◆研究内容

- (1) 言語少数派の子どもの対象とした教科学習支援方法の構築を目指し、母語を活用した内容重視型支援の可能性を、母語話者支援者の働きかけに着目して検討した。（『多言語・多文化研究』第12巻）
- (2) 母語を活用した内容重視型の支援を学校内で実施することの可能性と問題点を、横浜市の公立中学校における3年間の支援をもとに探る。（科研費萌芽研究「母語を活用した教科学習の過程と結果の分析」研究分担者）
- (3) 母語を活用した内容重視型の支援において、国際学級担当者が「国語」の授業を行う際の指導ストラテジーを明らかにする。（平成18年度科学研究費補助金（若手研究スタートアップ））
- (4) 母語を活用した「国語」の支援において、在籍級の授業と支援の授業（母語による先行学習と日本語による先行学習）の関連性を、学習課題に着目して分析する。（印刷中）

◆教育内容

- 1, 「非母語話者年少者教育学特論」（前期：学部／大学院）どの教科を担当する教員も日本語教授を自分の教科の中で扱えること、すなわち日本語指導を教科教育と統合して行えることをめざし、年少者日本語教育に関わる知見について、グループ討議を交えながら講義を行った。
- 2, 「非母語話者年少者教育学演習」（後期：学部／大学院）日本語非母語話者年少者に対する教科学習支援の実践的モデルについて、具体的な教育技術上の工夫を演習形式で学べるようにし、また、実践者をゲストとして招くなど現場の声を採り入れながら指導した。

前／後期いずれの授業においても、学部生、院生、研究生、科目等履修生（現職の日本語教師等を含む）など多様な背景を持つ受講生の参加を得て、年少者日本語教育に関わる理論と教授法について、「問い」を学ぶことを目指しながら講義や指導を行った。

◆共同研究可能テーマ

・小中学校の教科書を作成する教科書会社とともに、言語少数派の児童生徒を対象に、子どもの母語を活用した教科書（教材文の翻訳文）、ワークブック、語彙集、音声教材等の作成に取り組んでいきたい。

◆将来の研究計画・研究の展望

2005年度までは、母語を活用した内容重視型支援の可能性を主に子どもの側に着目して研究を進めたが、今年度からは教科理解を促すための方策を支援者の側から探る研究に取り組んだ（平成18年度科学研究費補助金）。また、年少者日本語教育についての基本的な理解や問題意識をもった教師（及び一般成人）の養成に関わって、新たな領域を開拓していきたい。

◆受験生等へのメッセージ

日本語を母語としない外国から来た子どもたちを対象とする教育では、教科学習を視野に入れた日本語教育のあり方が模索されています。お茶の水女子大学では2006年度より「日本語非母語話者年少者教育学特論」「日本語非母語話者年少者教育学演習」が開講されました。この授業では、非母語話者年少者の第二言語発達や教科指導、母語保持、さらには教科学習支援の実践的モデルについて学びます。

子どもの発達は「待ったがない」と言われます。たとえ言語や文化的背景が異なっても子どもたちの学びや発達を保障していくことはその社会の大人たちの責任です。教職に就くことを考えている人も、日本語教師として既に活躍されている人も、留学生の方も、さらには自分自身が帰国生である人も、言語少数派の子どもたちとどのように関わっていけばよいのか、一緒に考えていきたいと思えます。